

甲賀市レッドリスト 2022 その他の陸生無脊椎動物 概要

◇ 甲賀市のその他の陸生無脊椎動物 (その他の陸生無脊椎動物相および地理分布の特徴、解明度)

- ・ 甲賀市レッドリストの「その他の陸生無脊椎動物」とは、昆虫類と陸貝類を除いた陸生の無脊椎動物のことであり、具体的にはクモ類、ミミズ類、ヤスデ類、ムカデ類などがあげられ、非常に広い分類群を扱うことになる。これらの大部分は土壌性（土中や落葉下などに棲む）であったり、小型であったりして、日常的に人から注目されることは少ない。そのため、市内においても分布種や生息状況について、全般的な情報に乏しい。しかしながら、近年になって、クモ類のヒトエグモが滋賀県初記録として水口町で発見された。また、ミミズ類のハッタミミズが水口町や甲賀町で発見され、全国的に分布が限られる貴重な「その他の陸生無脊椎動物」が甲賀市に生息することが判明した。こうしたことから、情報が非常に不十分であることを認識しつつも、一定の重要な種類についての情報を提供する必要があると考え、前回 2017 年からレッドリスト策定を行っている。
- ・ 甲賀市には、東部に鈴鹿山脈、西部に信楽山地、中央部に広い丘陵地帯があり、地上付近に生息するその他の陸生無脊椎動物は、そうした地形と地史、植生などの特徴に影響を受けて分布すると考えられる。
- ・ 市内中央部には古琵琶湖層群からなる丘陵地帯があり、丘の間の谷に水田が長く延びる地形が広がる。こうした谷津田の景観にある水田の中には、日本最大のミミズであるハッタミミズが分布する。既知のハッタミミズの分布は、琵琶湖、三方五湖（福井県）、河北潟（石川県）の湖岸付近のみであり、内陸の甲賀市で発見されたことは注目に値する。
- ・ 旧東海道沿いの宿場町であり、古い町並みが残る甲賀市水口町京町、元町の古民家では、ヒトエグモが記録された。既存の分布では、京都と大阪の旧市街や農村部の古民家の記録がほとんどであり、滋賀県では初記録となった（その後、滋賀県内の大津市、長浜市、近江八幡市、東近江市のお寺や古民家から相次いで報告が得られた）。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 その他の陸生無脊椎動物 掲載方針

- ・ 甲賀市レッドリストでは、市内に分布する「その他の陸生無脊椎動物」を評価対象とした。しかし、全体的に調査が不十分であること、分類的に整理が必要な課題の多いグループが含まれることから、評価対象外とした部分も多い。
- ・ カテゴリー定義：「絶滅種」は過去に生息したが、現在は見られない種。「絶滅危惧種」は、生息場所が若干カ所（2・3カ所）以下、あるいは極限された（狭い1地域など）分布域。「絶滅危機増大種」は生息場所がかなり少ない、あるいは限定された地域のみ分布。「要注目種」は情報不足で、上記分類群に入る可能性が高いが決定できないもの。

良好な環境に生息する指標種で注目が必要な種など、とした。「地域種」については、地理的に甲賀市付近に特徴的な分布をする種や、市内に特有な形態や遺伝の型が分布する種を選定した。市内に広く分布し親しみ易いだけでは掲載しないこととした。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 その他の陸生無脊椎動物 掲載種の概要

- 各カテゴリー掲載種数は以下の表のとおりであった。

表. 甲賀市レッドリスト 2022 その他の陸生無脊椎動物 掲載種数

	2022	2017	2012	2007	備考
絶滅種	0	0	策 定 せ ず	策 定 せ ず	
絶滅危惧種	0	0			
絶滅危機増大種	3	3			
要注目種	5	3			
地域種	0	0			
(合計種数)	8	6			

- 掲載種として、絶滅危機増大種にハッタミミズ、キノボリトタテグモ、ヒトエグモ、要注目種にシーボルトミミズ、トゲグモ、ゲホウグモ、カトウツケオグモ、サイトウヌカグモを指定した。

◇ 甲賀市レッドリスト 2022 その他の陸生無脊椎動物の各カテゴリーの掲載内容と掲載理由

- 絶滅危機増大種 3 種では、ハッタミミズは水口町松尾と甲賀町岩室に分布が確認された。いずれの生息地も、谷津田のヨシが生育する放棄田や圃場整備されていない水田の中や畦付近である。詳細な生息場所を観察すると、放棄田のヨシが繁茂する場所よりも、草刈り等で適度な表土の攪乱が生じる畔やイノシシのヌタ場周辺など、表土がある程度に露出した環境に、ハッタミミズの糞塊を見かけることが多かった。圃場整備されていない水田は、放棄されてヨシなどが繁茂する事例が多いことから、市内の水田付近では、生息環境が限定されると推察した。キノボリトタテグモは偶然に採集された記録しか得ておらず、分布や生息数の詳細については不明である。しかしながら、土山町と信楽町の一定の場所に記録が限られること、環境省と滋賀県のレッドリストのランクを参考にしたことから、このランクとした。ヒトエグモについては、先述のとおり、市内の旧市街の古民家に記録が限定されることから、絶滅危機増大種とした。
- 要注目種 5 種では、今回の調査により、トゲグモとカトウツケオグモを水口町で記録することができた。シーボルトミミズは鈴鹿山脈で記録がある。ゲホウグモ、サイトウヌカグモについては、滋賀県レッドデータブック 2020 年版の分布記録を引用したのみである。

◇ 今後の対策・留意点

- ・ ハッタミミズの生息する古くからの形状が残る水田環境は、開発による埋め立てや完全放棄による植生遷移によって、消失しやすい状況にある。みなくち子どもの森の水田に移入したハッタミミズは定着しなかったことから、土地の泥の性質が関係している可能性がある。今後の保全方法の検討が必要である。
- ・ ヒトエグモについては、民家の家屋の内外に生息することもあって、実際の保全には難しい問題が多い。現在は水口町の旧市街地（東海道沿い）の民家や寺社で発見されているが、土山町の宿場町などにも分布する可能性がある。
- ・ その他の陸生無脊椎動物を調査する人が少ないことがあり、今後のレッドリスト改訂についての課題である。

【参考文献】

- 藤野義人（2021）ヒトエグモの生息分布調査 3（京都市以外生息地の追加記録）. くものいと, 54: 52-55.
- 河瀬直幹（2017）滋賀県におけるヒトエグモ発見と新聞等を通じた市民からの情報収集. くものいと, 50: 52-55.
- 河瀬直幹（2022）滋賀県甲賀市におけるカトウツケオグモの記録. くものいと, 55: 13-14.
- 環境省（2020）環境省レッドリスト 2020. <<http://www.env.go.jp/content/900515981.pdf>>（2020年3月27日公表、2022年9月閲覧）.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2007）甲賀市レッドデータブック- 守ろう!! 甲賀の自然と生き物. 80pp. 甲賀市, 甲賀.
- 甲賀市みなくち子どもの森自然館（2018）甲賀市レッドリスト 2017 <<http://www.city.koka.lg.jp/item/11775.htm>>（2022年9月閲覧）.
- 滋賀県生きもの総合調査委員会（2021）滋賀県で大切にすべき野生生物-滋賀県レッドデータブック 2020. 675 pp., 滋賀県自然環境保全課, 大津.
- 新海栄一（2006）ネイチャーガイド 日本のクモ. 335 pp., 文一総合出版, 東京.

【その他の陸生無脊椎動物 担当者： 氏名（所属）】（敬称略、あいうえお順）

大谷 ジャーメン ウィリアム（日本貝類学会）

河瀬 直幹（みなくち子どもの森自然館）